

地盤3 (ドライエリア等)

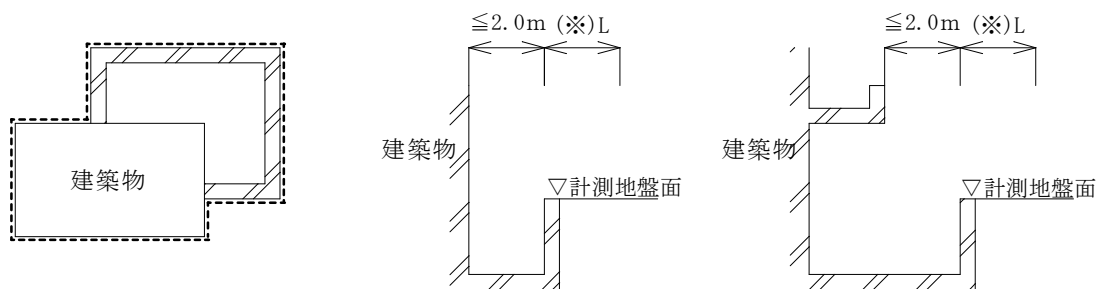
(関係条文)

令2条2項

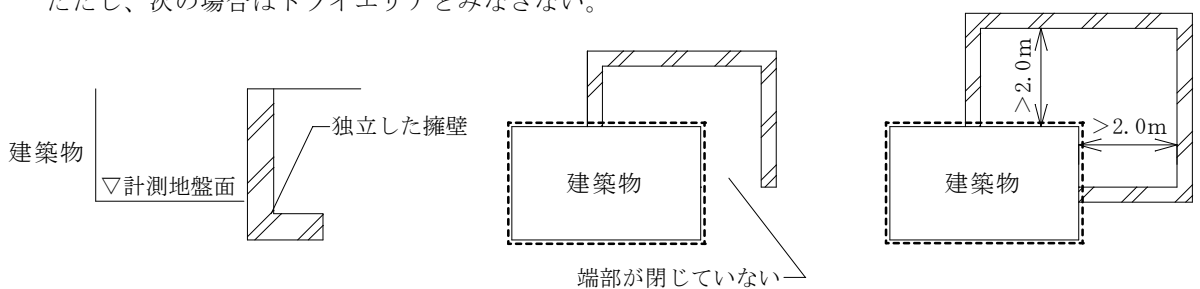
ドライエリアがある場合の地盤

定義：建築物と一体に設けられたドライエリアとは、通風・採光のための必要最低限の形態で、平面的に閉鎖状態のもの出巾（外壁面とドライエリアの壁面間の有効寸法）が2.0m以下のもの。

建築物周長は太点線位置で計算する。



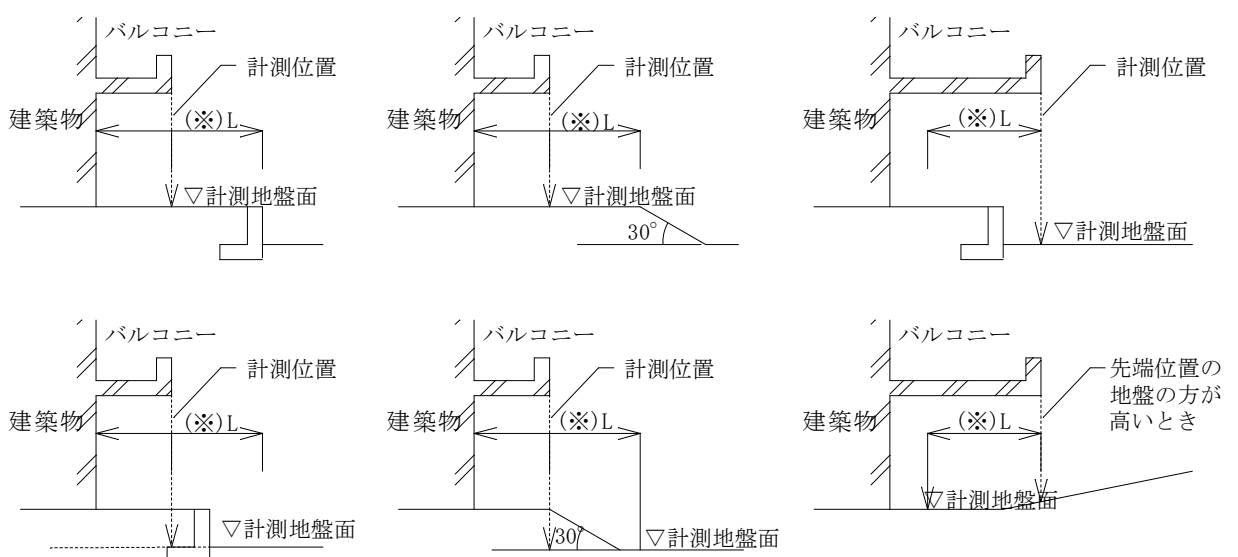
ただし、次の場合はドライエリアとみなさない。



地盤の水平方向の広がり取扱い

接する地盤の水平方向の広がり原則L以上必要。

(ただし、都計法29条、宅造による擁壁で敷地境界線沿いに設けられたものはこの限りでない)



(※) L: $\ge 1m$ (ただし、戸建て住宅は $\ge 50cm$)

備考 「高さ・階数の算定方法・同解説」日本建築主事会議

西宮市建築基準法取扱い基準
2010.04.01
2024.04.01